

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400202		
法人名	社会福祉法人 新		
事業所名	グループホーム むろみ		
所在地	福岡市早良区室見5丁目10-34		
自己評価作成日	平成28年4月18日	評価結果確定日	平成28年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年5月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

地下鉄室見駅から徒歩3分と近く、交通アクセスが良いことからお気軽にお立ち寄りできます。また、閑静な住宅街の一角で、室見川からも近く、お散歩の際には利用者様に身近に四季を感じていただける恵まれた環境にあります。当法人ではかねてから特別養護老人ホームを運営しており、認知症をはじめとする介護に関する豊富な知識や技術を活かしたサービスを提供いたしております。また、協力医療機関との連携により手厚い医療が受けられることも利用者様やご家族に喜ばれております。
当法人は、平成15年5月に開設した特別養護老人ホームの時代から「育ててくれた地域への恩返し」をモットーに運営をしております。地域密着型サービスである当グループホームでは、住み慣れた地域で安心して生活ができて、どなたでも気軽に立ち寄ることができる場所やサービスの提供を通して、更なる「地域への恩返し」を目指して運営してまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームむろみ」は、近隣に特養を運営する社会福祉法人を母体を持つ、小規模多機能と併設型の2ユニットグループホームである。法人理念にある「地域への恩返し」を体現する事業形態としてH26年に地域密着型事業を開始した。ロケーションにも恵まれ、すぐ前を流れる室見川沿いの遊歩道は散歩コースとしても最適で、四季折々の風景が楽しめる。開設時から地域との関係も良好で、地域行事には積極的に参加してきたが、昨年度からは更に施設を知ってもらうために、認知症サポーター活動や、ヘルパースクールでの講師活動などにも取り組み始めた。法人内での事業連携もよくとられており、AED研修や、職員研修、餅つき、敬老会、夏祭りなどの行事も合同で行っている。今後も更に地域との関係構築と協力関係が作られていくことが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設を立ち上げた際に、職員全員で考えて作り上げた事業所の理念であり、地域に愛されることを目標にした内容となっている。また、笑顔で接することや利用者に四季を感じていただけるように外出も行なっている。	グループホーム独自の3つの事業理念があり、いつも目に付くように、更衣室への掲示、パンフレットの掲載、ミーティング時などに振り返りも行っている。事故やクレームがあった時も理念に立ち返り、「笑顔を大切に〜」「自然体で〜」などを話し合っている。理念を念頭に入れて、地域交流の話し合いにも生かされつつある。	直近で計画される人事評価の評価表に理念に関する理解度や実践に関しての項目も入れ込むことで、より意識的に理念への取り組みがなされることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、地域で行なわれる行事には積極的に参加するようにしており、施設内で行なわれる年に2回の避難訓練なども地域の方に参加していただいで実施している。夏祭りや餅つき会、子供のハロウィンイベントに参加している。	開設当初から、自治会長にお誘いを頂いて、夏祭り、敬老祭などに招待されている。昨年からは小学生とハロウインの交流も行った。自治会にも加入しており、毎月自治会長が地域情報も持ってきてくれる。毎週、地域の清掃活動も自主的に行き、今後は制服なども活用して広報的にも取り組みを考えている。徐々に地域への周知もされてきた。昨年度から地域のふれあいネットワーク推進会議にも参加している。	更に地域に「グループホームむろみ」のことを知ってもらうために、露出を増やしたり、認知症サポーターの講師活動をしたり、ホームページを活用していくことが計画されており、早い実現が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度の施設の目標として、認知症サポーターの要請講座を地域の方々にに向けて開催しようと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2カ月分の業務実績と業務予定を報告し、これまでの取り組みの中から事例を挙げて意見を伺い、評価を行なっている。	併設の小規模多機能と合同で、2ヶ月ごとに行い、自治会長、地域包括の他、家族も数名参加される。家族には全員に案内し、1、2名が来られ、入居者が参加することもある。行事案内や報告をプロジェクターを利用してスライドで分かりやすく行っている。議事録は各ユニットの入口に閲覧用のものを設置している。昨年他事業所との相互参加も行った。	家族の参加を増やしていくために、興味を持てるようなテーマや勉強会形式にしたり、イベントとの同時開催などを検討してはどうだろうか。「県政出前講座」などの活用で、地域への呼びかけや家族への案内をされても面白いのではないかな。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場を利用して事業所の実情を知っていただき、意見を伺っている。また、その都度わからないことがあれば連絡をして密にコミュニケーションをとっている。	毎回運営推進会議の案内を市にも行い、一昨年度はよく参加もしてもらった。今年に入り1回目の実地指導も受けたが、特に指導されることもなかった。何か質問ごとなどあった際も担当課に電話などで問い合わせしている。介護申請時も窓口を訪問しており、入居状況も毎年メールで報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	7月と3月に身体拘束の廃止に関する職員への内部研修を行なっている。現在のところ、身体拘束を行なっている利用者はいない。	施設内の移動は自由にできるが、1Fの小規模多機能での離設リスクと防犯上の理由で、玄関施錠を行っている。特段外出の要望はないが、ある際には職員付き添いで、引き止めることもなく外出も出来る。原則拘束行為をしない方針で、過去に事例もなかった。外部研修への参加もあり、伝達も行い、職員間の理解も進めている。	

H28自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6月と2月に高齢者の人権擁護に関する職員への内部研修を行っており、その際に虐待防止に関しても触れている。	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	6月に高齢者の人権擁護に関する職員への内部研修を行っている。 現在のところ、該当者はいない。	開設から今までに、相談はあったが制度利用された方はいなかった。内外の研修で、権利擁護に関しても取り扱い、制度理解を進めている。必要時には外部の専門家や関係機関と連携して対応する。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はあらかじめ時間に余裕を持って対応しており、十分な説明をして納得を得ている。	
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、面会に来られた際は家族とコミュニケーションをとるように心がけており、要望を聞き取るようにしている。また、運営推進会議への参加を促し、意見を聴取して運営に反映させている。	単身の入居者はおらず、遠方の家族でも月1回以上は面会があり、その際に報告を行う。日常の記録を書面での欲しいとの要望もあり、基本的には行う方向で現在検討中である。運営推進会議や、家族参加のできる行事がある際はその都度案内を出している。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議を開催し、職員の意見を聴取する機会を設けている。	毎月、ユニットごとのフロア会議と、全体で行う役職者の会議があり、フロア会議にはパート職員も参加し、欠席の際も事前に意見を伝えている。入居者の情報を共有し、ケアや医療の改善などについて話し合っている。日頃からも管理者に意見も挙げやすく、物品購入や要望などにも積極的に取り組まれている。個別相談の機会も毎月もたれ、円滑なコミュニケーションがとられている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月フロア会議を開催し、職員の意見を聴取する機会を設けている。	
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接の際は、年齢や性別に関係なく平等に判断している。また、働いている職員に対しても面談を行ない、長所や短所を見極めたアドバイスを送るなどの配慮をしている。	男女も半々に近い割合であり、年齢層も10～60歳代まで幅広い。それぞれの能力や経験を活かし、協力してサービスにつなげている。外部研修の案内もあるが、勤務体制もあり参加はあまり多くはなかった。休憩時間や場所の確保もあり、希望休暇もお互いに協力しながら要望が通るように配慮されている。

H28自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	6月と2月に高齢者の人権擁護に関する職員への内部研修を行なっている。現在のところ、該当者はいない。	年間計画の中で、定期的に高齢者の人権擁護に関しての内部研修や倫理法令順守の研修を行い、権利擁護や虐待防止、介護保険関連などに関しての研修をしている。	人権関連の外部研修案内をもらっているが、参加には至っていなかったため、年間計画の中で参加がなされることが望まれる。実践者研修やケアマネの更新研修での講義内容の伝達を行ってもよいのではないだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って内部研修を行い、その都度外部研修への参加も促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会「いとの会」において行なわれている交流会に参加している。また、同法人内で行われる行事や交流会に参加して交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居した際にグループホームでの生活に対する意向の確認を行なっている。また、なじみの関係を築けるように毎日コミュニケーションをとっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に面談を行なっており、その際に要望や質問を伺っている。また、契約の際にも再度確認するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをとることでニーズを見極めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お互いが自然体で接し合える」という理念をもとに関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめな連絡を行い、病院受診での外出の際や行事の際などご家族が関わることができるときには可能な限り参加していただけるように働きかけている。		

H28自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居に関する説明を行なう際に、これまでの生活環境により近づけることができるように自宅にあるものを居室に持ってきてもらえるように説明を行なっている。	家族との協力で、以前から利用している美容室に連れて行ってもらったり、天神まで買い物に出る方もいる。近隣からの入居者も多く、一時帰宅する方も多い。家族が働いている料理屋と一緒に行って食事することもあった。手紙や電話などもその都度の要望で対応している。面会も自由に受け入れ、知人や友人の来訪もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の自由を尊重しつつも、レクリエーションや行事への参加は全員に声掛けするようにしている。また、利用者同士でのコミュニケーションを円滑に取れるように職員が間に入って会話をするようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	取り組む準備はできているが、現在のところ実績はない。 退所された方の家族から、別の親族の方の利用相談を受けたことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所した際にアセスメントをとり、意向の確認をしている。	アセスメントは各ユニットの管理者が担当し、ヒアリングによって本人、家族より聞き取り、入居時の他、半年ごとに見直している。必要時には居室担当職員からの意見を参照することもある。昨年アセスメント様式を改善し、項目ごとの意向や課題なども詳しく記録できるようになった。意思疎通の難しい方は家族から聞きとった生活歴などからアプローチ方法を検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から話を聞いて生活歴の把握に努めている。また、医療機関や介護施設からの情報提供からも把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日観察し個人記録をつけることで一日の過ごし方や心身状態などの現状を把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の説明の際にご家族や本人からの質問や意見を伺い、本人の状態に変化があった際は家族に連絡し、その都度報告している。また、おおむね3ヶ月に1度モニタリングを実施して介護計画に反映させるようにしている。	各ユニットの計画作成担当者がプランを作成し、3か月ごとに見直し、その際に担当者会議も行っている。毎月のフロア会議で職員内の意見を出し、担当者会議には医師や薬剤師、歯科衛生士、家族なども参加され、それぞれの見地から意見も頂いてプランにつなげている。ケアプラン目標の実施チェックもあり、プランのモニタリングも行っている。	現状は居室担当として、各職員ごとに物品や清掃を担当しているが、今後は家族への連絡担当や、報告、お便りの作成担当のような役割もってもらい、徐々にスキルアップにつなげていってはどうだろうか。

H28自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録をもとにフロア会議でモニタリングを行い、その際にケアの方法についても話し合っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福岡市外に住まわれていた方でも住所を施設の住所に変更して入居していただけるようアドバイスをし、実際に入居していただいた。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌の情報をもとに地域資源の活用を検討しているが、現在のところ、これといった実績はない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の契約の際に、かかりつけ医を確認しており、急変が起きた際の対応についても説明をして納得を得ている。また、通院介助や往診にて利用者の健康管理をしている。	関連医療法人と提携しており、訪問診療もあるためそこを主治医とする方が多い。希望があれば外部のかかりつけを利用することも可能で、現在は家族に通院介助してもらうが事業所からの支援もされている。訪問歯科や訪問マッサージの利用も出来る。家族とは随時情報を交換し、所内でも医療ノートで共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時の申し送りの際に看護師への報告を行っており、異常が見られた際も適宜報告を行い、適切に対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、適宜、医師に状態を尋ねることで現状を把握している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約の際に、看取り介護についての説明を行い意向の確認を行っているが、入所時には対象の方がおられないことから、実際にターミナルの状態になられた時に再度意向を確認する旨を伝えている。現在のところ、実績はない。	開設当初に、ターミナルの方を受け入れ、看取った事例があったが、それ以降に対応したことはなかった。入居時に説明を行い、重度化の際に改めて確認をする。事業所の方針としては希望があれば最期まで支援する考えで、関連の提携病院も24時間の迅速な対応が可能である。年に1回、看取りに関しての内部研修を看護職員中心に行っている。	

H28自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	6月と11月に事故発生時の研修を行っている。また、10月には応急救護の研修を法人内で行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	5月と12月に地域の住民と共に避難訓練を実施し、施設で火災や災害が起こったときの対応を確認した。	併設小規模多機能と合同の防災訓練が年2回あり、基本的には夜間想定で消防署の立会いが内1回、2回とも地域の防災委員に参加してもらった。チラシを使って案内も行っている。地域が行う防災訓練にも職員が参加した。2、3Fからの避難もテラスからの非常階段を使って避難できる。	備蓄物の準備を検討しているが、場所などの問題もあり、実現には至っていないため、準備が進められることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なじみの関係を築けるように方言を交えながらも人格や誇りを傷つけないように配慮した声掛けを行っている。	入居者の事を尊重しながらも、敬語だけでなく、伝わる言葉として方言も交えた働きかけも行う。随時行う入職時研修の中でも接遇に関して取り上げており、内部研修の中でプライバシーや個人情報保護に関して学習している。男性職員も多いが要望があれば同性介助による対応にも配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	掃除や洗濯などのお手伝いや、レクリエーションや体操などの活動において強制的ではなく自己決定できるような形でお誘いしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	メリハリのある生活や生活のリズムを大切にしながらも、基本的には自由に過ごしていただいている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や臥床時の更衣の際は、可能な限りご自身で衣類を選んでいただいている。また、外出の際は、お化粧品をして外出着で出かけている。好みに合わせてマニキュアを塗っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	適宜、食事レクを行っている。その際、一緒に準備をして料理をしている。日々の食事に関しては、主に片づけを一緒にいただいている。	業者によるメニュー、配食があり、療養食などの個別対応も可能で、炊飯と汁物のみ、事業所内で調理している。配膳や皿ふきなど手伝えるものを手伝ってもらうこともある。元パティシエの職員もおり、デザートづくりは喜ばれている。職員はそれぞれ別時間に食事しており、おやつレクなどでは一緒にすることもできる。感想や食べたい物の対応は外食で行っている。	食事の感想や、状態を把握するために、検食担当を持ち回りなどで設けて、負担にならないような形の取り組みを検討されてはどうだろうか。

H28自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と連携し、食事摂取量やカロリーの調整を行っている。また、可能な限り、自力摂取できるように必要な器具はその都度準備している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態観察は、口腔ケアの際に毎回行っている。その他ほぼ全員が居宅療養管理指導にて毎週1回歯科衛生士が口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	モニタリングの際に排泄の場所や物品の検討をして、可能な限り自分の力で排泄が出来るように支援している。	ユニットごとに全員分が管理できる排泄チェック業があり、毎日24時間の管理をしている。日中はトイレ排泄を基本とし、退院後紙パンツだった方が排泄改善し、布パンツ・パット使用に出来たこともあった。便秘が続く場合も日数を記録し、処置につなげている。改善が必要な場合はフロア会議で提案し、必要時は随時話し合われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄パターンを把握する為に排泄チェック表に記録を残しており、便秘傾向にある方は運動を促し下剤でも調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴をする機会を設けており、現在のところ利用者の希望は聞かれていない為、こちらの都合で行っている。	ユニットごとの造りは共通で、三方向介助が出来る位置に浴槽があり、壁面の手すり、可動式サイドベンチによって移乗も安全にできる。基本的に週2、午後からの入浴で対応しており、順番はそれぞれ均等に変更している。拒まれた際は時間や担当を変えて、少なくとも週1以上は入るようにしてもらっている。皮膚観察も行い、必要な際は看護師とも連携を取っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症状で就寝のタイミングが分からない方以外は、自分のタイミングで就寝していただいている。また、安心して眠っていただけるように自宅での環境に近い畳を使用していただいている方もおられる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し、内容に変更があった場合や疑問に思ったことなどは随時確認をとっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室見川が近いことから、天気がいい日は散歩に出かけて四季を感じて頂き、気分転換をしていただいている。また、利用者の趣味を活かせるレクリエーションに取り組んでいる。		

H28自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望を叶えられるように支援している。通常、外出したいとの希望があった場合は、室見川や近所の公園に外出している。	季節ごとの地域行事への参加や、法人の行事の参加のほか、ショッピングモールでの外食や、花見などを行っている。日頃も室見川が近いため、気候の良い時期には気軽に散歩に出かけている。計画外でもドライブに行ったり、個別対応で買い物に行くこともある。車いすの方も同じように外出機会を持ってもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を第一に、利用者の方が気持ちよく過ごしていただけるように毎日清掃しており、壁の飾りを工夫することで季節感を感じていただけるよう配慮している。	床材はフローリング調のフロアマットで、家具などはライトブラウン調の明るい色彩で統一されている。居室とホールは隣接しており、居室の様子もすぐに窺える。ホールはかなり広めで、全員が座れるダイニングテーブルの脇にも、歩行訓練できるような広いスペースが確保されていた。トイレも3か所あり、居室から近いところを使いやすくしており、1か所は脱衣場からも入れるようになっている。	非常に整理整頓が行き届いているが、季節感のある飾りや絵画や写真や掲示物など、より暖かみを感じられるようなレイアウトなどを検討されても良いのではないだろうか。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	6人がけのテーブルを2卓と3人がけのソファを配置しており、日々の様子を観察して気の合う方同士に座っていただけるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の契約の際に思い思いのものを持ってきていただける旨を説明しており、実際に様々なものを持ってきていただいている。	入居前の自宅の環境を聞いて、家具や写真などの持ち込みでスムーズになじめるように配慮している。基本は洋室だが、希望や必要があれば、畳を敷いて布団で休むことも出来る。備え付けの介護ベッド、タンス、クローゼットがあり、ライトブラウンで統一されている。比較的シンプルにされており、よく片付けられていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように張り紙をしたり、利用者の動線に配慮して家具を配置している。		